

=推進員活動報告=

『ゼロカーボンシティ 加古川』の実現に向けた 推進員活動の内容と課題

～産・学・民・官の共創による持続可能な地域づくりを目指して～



資源エネルギー庁HPより

2023.3.4(土)

東播磨地域/推進員
高田 敏則

自己紹介



- ・エネルギーのエンジニアとして、国内外のプラントの省エネ診断・改善をコンサルティング
- ・元APEC・経済産業省・環境省等の様々な会議の委員を担当
- ・「地球温暖化・気候危機対策」について、各地の市民に講演、小・中・高校で授業
- ・エネルギー管理功績者/資源エネルギー庁長官表彰、環境保全功労者/兵庫県知事表彰 など

現在も、「環境省 /地球温暖化防止コミュニケーター」

「省エネルギーセンター/省エネルギー普及指導員」

「全国地球温暖化防止ネット /家庭のエコ診断士」

「兵庫県 /地球温暖化防止活動推進員」

「サステナビリティ オーガナイザー(地域持続可能士)」

などとして活動

70歳までは、世界のプラントの省エネ診断・改善のための人材育成業務

60歳以降は、地域社会での活動も実施

この10年で地球の未来が決まる ?! 我々、推進員の活動は益々重要に・・・

- ・2030 アジェンダ SDGs
- ・2050 ゼロカーボンシティの実現
- ・気候危機に備える有効な適応策の実施
- ・生物多様性「30 by 30」の実現 ……など

脱炭素地域づくり
カーボンニュートラル

脱炭素・自然共生・資源循環地域づくりを統合的・戦略的に促進
国・自治体主導ではなく、民・学・産・官による共創で
現状延長の政策・計画ではなく、バックカスティングで
持続可能な地域の創り手・担い手の人材育成 など

自然共生地域づくり
ネイチャーポジティブ

資源循環地域づくり
サーキュラエコノミー

持続可能な地域社会の創造、地方創生

地域での活動のきっかけは・・・

- ⇒50歳になった時に、60歳以降は仕事とは別に、地域社会での活動をする事も自身の目標においた
- ⇒60歳になった時に、地元加古川市の環境政策の内容確認と地域社会貢献活動の相談のために市役所に訪問
- ⇒地域での活動をする上で必要との自身の考えから、「うちエコ診断士」、「温暖化防止活動推進員」、「環境省の地球温暖化防止コミニケーター」、「サステナビリティ オルガナイザー(地域持続可能士)」等の資格を取得
- ⇒加古川市市長から「加古川市/環境政策審議委員」、「温暖化対策分科会/会長」等の委嘱を受けて10年間活動
- ⇒県知事から「環境保全功労者/知事表彰」を受賞

地域での10年間の活動内容-1

1.市役所に対して

- ①職員(幹部・管理職・施設管理責任者等)への、「省エネ法」・「温対法」等の法規制や省エネ・CO₂排出削減手段に関する**セミナーの実施**
- ②省エネ法によって作成・運用が義務付けられている各施設・設備の「**エネルギー管理標準**」の作成のご指導と運用定着までをサポート
- ③主要施設(市庁舎・清掃工場等)の**省エネ診断と改善**の提案、それを市の施設全体に展開
- ④環境政策審議委員として『**加古川市/環境基本計画**』を策定(第2次、第3次)
- ⑤市長に『**気候非常事態宣言**』と『**2050年ゼロカーボンシティ宣言**』の必要性を提案し、いずれも実施された
- ⑥『**2050年ゼロカーボンシティ加古川**』の実現のために、2030年目標の改定の必要性を提案し、『**2030年△48%削減**』の**目標が設定された**
- ⑦上記の目標達成に必要な**産・商・学・運輸・家庭部門の実施方策を提案中**
- ⑧『**脱炭素先行地域づくり**』の必要性を提案中

地域での10年間の活動内容-2

2.市民の皆様に対して

- ①小・中・高校で「**環境出前教室**」を実施
- ②市民会館・公民館等で「**環境講演会**」を実施
- ③大型ショッピングセンター等で「**エコ暮らし相談会**」を開催
- ④「**うちエコ診断**」の実施

3.事業者の皆様に対して

- ①事業所向けに省エネ&CO₂排出削減の**セミナーの実施**
- ②産業の主要な事業所の省エネ&CO₂排出削減のための**プラントの診断に基づく改善提案**
- ③商業の代表的な事業所の省エネ&CO₂排出削減のための**プラントの診断に基づく改善提案**
- ④特定の事業所の**トップからの訪問要請を受け、省エネ&CO₂排出削減の進め方についてアドバイスを実施**

4.私と同様な活動をされておられる皆様に対して

エコに関する新技術や市場動向等の情報をご希望者にメール配信

高田 敏貞先生へ

2月9日省エネのことをよく知っている高田先生にききました。加古川の方からきたそうです。いろいろ教えてもらいました。エネルギーというのは、ドイツ語で仕事をやる力だそうなんです。エコをしないと地球温暖化がすすんで地球がなくなるかもしれないそうです。だからそれをすくうためにエコたいてんくをしようと思いました。たとえば電気を取りかえるときに、CO₂やワット数やお金がかつより少ないLEDにしよう

と思いました。ぼくはこういう発明をしたりがけんしてみたりするのが大好きです。この話を聞いてしょうらいのゆめが決まりました。ぼくはこういうことをする科学者になろうと決めました。道とくの時間に勉強したみたいにかんば、たらゆめがかたええいつのを信じてゆめをかたえて地球をすくいたいです。

3年松組

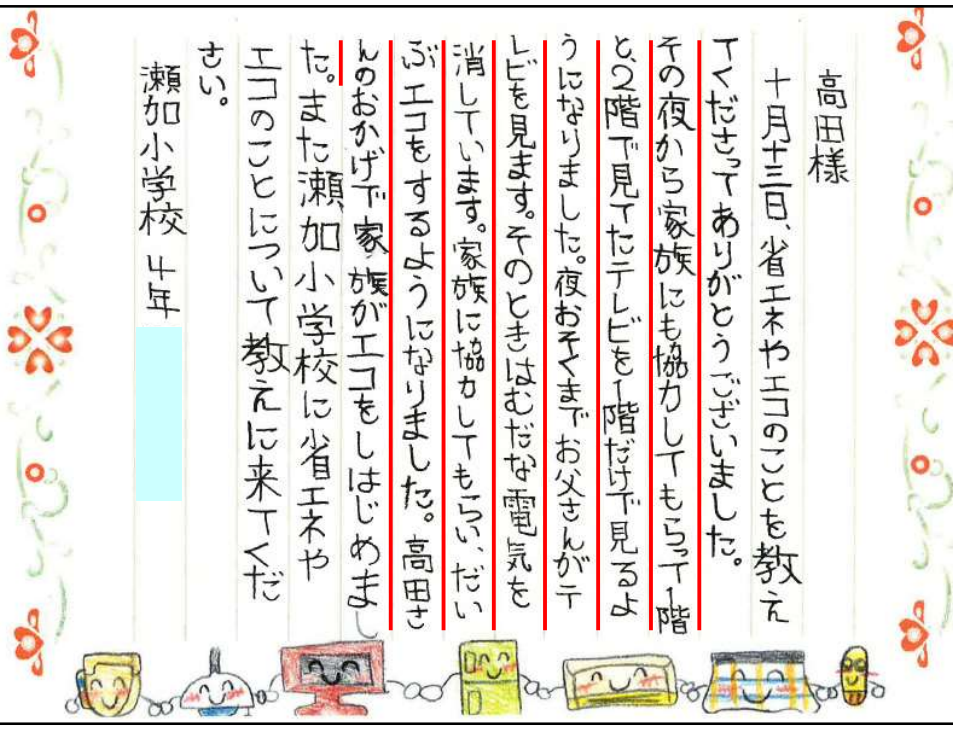
高田としのり様へ

2月9日、省エネ出前授業
を受け、ぼくは、ごう思いま
した。ぼくは、地球温たん化
たいきくにきょうかしようと
思いました。その理由は、
きれいな地球にしたいと思
うからです。ストーブやエアコンを
こまめに消してCO2をへらし
て、きれいな地球にしたいと思
います。自分にできることであれば、
なんでもきょうかしりたいです。
高田先生の授業は、一生わす
れられない授業だと思います。
ありがとうございました。
三年二組

高田様

十月十三日、省エネやエコのことを教え
てくださり、ありがとうございます。
その夜から家族にも協力してもらって階
と2階で見てたテレビも1階だけ下見るよ
うになりました。夜おそくまで、お父さんがテ
レビを見ます。そのときはむだな電気を
消しています。家族に協力してもらって、だ
いぶエコをするようになりました。高田さ
んのおかげで、家族がエコをはじめまし
た。また、瀬加小学校に省エネや
エコのことについて、教えるに来てくだ
さい。

瀬加小学校 4年



推進員の活動の課題

自治体や市民、事業者の皆さんの温暖化・気候危機に対する関心・意識が、年々高まって来ていることを実感しています。

しかし一方で、

1. まだまだ、『自分に関係ない』という【無関心】、またライフスタイルを変えることに対して、『やるのは面倒』という【負担意識】のある方が多くおられるのも事実です。
2. また、持続可能な社会を実現するためには、他の推進員の皆様との連携による活動エリア等の拡大や我々の後継者として、未来の創り手・担い手の育成が必要ですが、皆様との連携が不足、また自身の【後継者】の育成ができていない。
3. これまでの活動は個人としての活動であり、また地域の脱炭素化のためには、産・学・民・官の全体による「共創」や「地方創生」を目指してきたが実現できていない。

推進員の活動の改善案-1

“脱炭素社会の実現”のために、
地域社会が抱える課題を“自分事”として考え、その解決に向けて、“自ら行動する”、市民・事業者・自治体をもっと増やすために
推進員の活動にESDとナッジ手法を取り入れましょう！

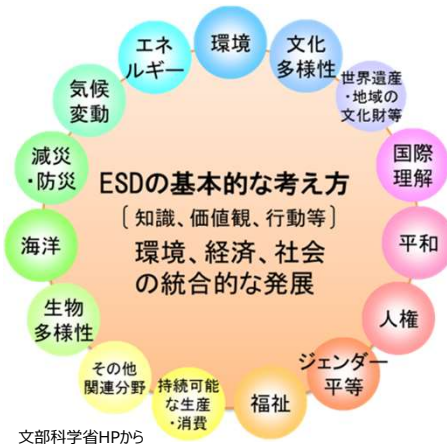
ESDは、自身の変革も含めて、廻りの人を変え、“未来を変えるための人づくり”の実践的手法です。

ESDは、相手の「意識変容」と「行動変革」を促すために、関心の喚起、理解の深化、参加する態度の醸成、問題解決力の育成、行動の実践、習慣化までを目指しています。

また、ナッジは、相手が無意識で行動するように、そっと背中を押す理論的手法です。

推進員の活動へのESDの活用

ESDは学校教育だけでなく、推進員としての自治体との会議や協働の活動、自治体への政策提案、出前教室、うちエコ診断、また事業所内の人材育成、自治会の運営・・・等々、あらゆる活動に応用できます。



ゼロカーボンシティの実現に向けて(一例)

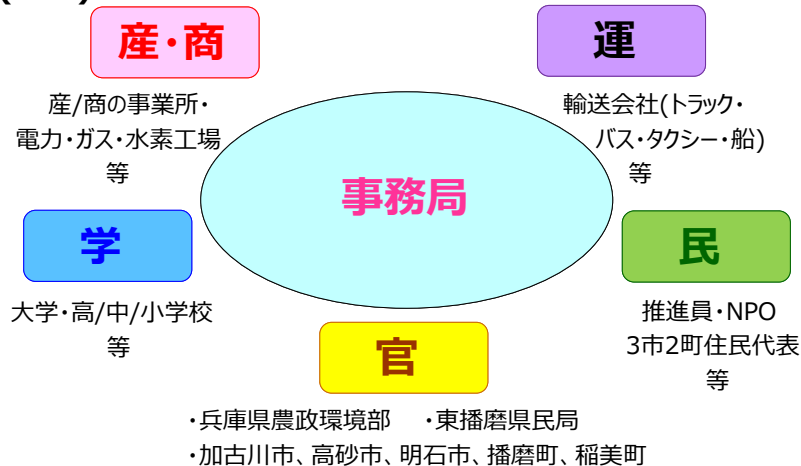
1. 温暖化・気候変動の「気付き・気掛り」をディスカス
2. 気候危機の真実を伝える(インパクトのある導入)
3. 気候危機の原因は何なのか
4. このままだと将来どうなるのか
5. どんな対策が必要なのか(緩和策・適応策)
6. 自分・家庭でできることは、事業者・自治体が行う事は、共創のためには・・・(それぞれディスカス&提案)
7. それらの実践、民・学・産・官で共創促進
8. 分野毎の効果検証、視える化、地域で成果発表
9. 習慣化・継続定着、共創の促進のために
10. 後継者への伝承・育成

上記の例のような単元構想(シナリオ企画)を、皆で連携して考え、準備し、実践を通して、スパイラルアップしていくことが重要と考えます。

推進員の活動の改善案-2

加古川市域から東播磨地域に拡大、そして産・学・民・官の共創のために

「東播磨地域のゼロカーボン化の実現に向けたネットワーク協議会」(私案)の設立・運営を提案中



現在の私の「目標」・「夢」は・・・

現在は、

気候危機に対する適切な緩和策と適応策を行い、我が街 加古川市が、他の自治体の見本となるような『2050年ゼロカーボンシティ加古川』と『2050年ゼロカーボン東播磨地域』を実現させることです

しかし、私はそこまでは活動できませんので、『これなら実現できそうと、市民が納得できる』ように、2030年までに「目途」を付けることです

最後に

気候変動問題の解決に「目途」を付け、地域の子供達の未来に希望を持たせるのは、**我々の世代の責任・義務**であると私は考えます。

そのために、皆様と連携して、**『脱炭素地域づくり』の活動と、『持続可能な地域の創り手の育成』の活動を促進していきたい**と思います。

配信メールをご希望の方は、tttt@bb.banban.jp まで

資源エネ庁HPより